平成 31 年 2 月 13 日

平成 30 年度　地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長　殿

所　属　医学部名張地域医療学講座
氏　名　市川　周平

活動テーマ	地域住民の就労と治療の両立を促進するためのリテラシー教育プログラムの開発と地域での展開
実施期間	平成 30 年 4 月 1 日　～　平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	（1）具体的な活動実施内容 平成 31 年度以降の地域での展開のため、教育内容であるリテラシーを特定し、その評価方法と適した教育方略とを明らかにした。 （2）地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与，広がり） 名張市役所福祉子ども部内での理解と受容が進んできた。平成 31 年度以降に具体的なリテラシー教育を地域で展開することで、具体的な政策に落とし込めると期待できる。 （3）共同実施者との連携状況 名張市役所福祉子ども部とは、職域保健および地域保健での地域課題解消のために平成 27 年度より連携を続けている。本事業では、核となる教育資材の開発を大学の研究者が主として行い、その地域での展開のプランを共同実施者が立てている。 （4）大学の教育・研究成果のかかわり 医学部 4 年生の TBL チュートリアル（家庭医療学講義）で、患者の背景をふまえたケアの一環として、仕事と治療を両立するために医師に求められることを講義している。 （5）イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等） リテラシー開発のためのフォーカスグループの実施（就労と治療の両立のためのリテラシー開発会議、津市内会議室、参加人数 9 名）

	（６）これまでの取組みによって得られた具体的な成果について ※継続４年目以降（認定）の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な成果について記述願います。 平成 30 年度（1 年目）は、地域住民や労働者が持つべきリテラシーを特定し、リテラシーの評価方法を開発し、リテラシー教育の概要を設計した。ここでリテラシーとは、「自分または家族が病気になり仕事に差し障りが出た際に必要な情報を集め、理解し、評価し、活用するための能力」と定義した。 専門家パネルによるフォーカスグループとコンセンサスメソッドを組み合わせた。専門家パネルは産業医、プライマリ・ケア医、産業保健師、行政保健師、両立支援コーディネーターで構成された。(1) 研究チームでリテラシーおよび評価法の素案を作成し、(2) 専門家パネルに提示した上で、(3) フォーカスグループで半構造化法を用いてディスカッションを行った。(4) その後、フォーカスグループでの議論を元に研究チームで素案を改定し、電子メールにて専門家パネルに提示した。(5) 専門家パネルは項目ごとに賛成か反対かを示し、全体の 3/4 以上が賛成した時点でコンセンサスに到達したとみなした。コンセンサスに到達しない項目が合った場合は、(4) と (5) を繰り返した。 リテラシーは「仕事と治療の両立の基本的な考え方を知る」「会社側の事情と体制を把握・理解できる」「会社と交渉するときに必要な情報を理解する」「休職・離職した場合に利用できるリソースを理解する」「誰に相談すれば良いかを理解する」「自分や家族が病気になった時の心構え」の 6 カテゴリーで構成されていた。評価法は自記式のアンケートとルーブリックとを作成した。1 度の改訂でコンセンサスに到達した。 平成 31 年度（2 年目）以降、三重県名張市の企業等をフィールドとし、新卒や新任管理者研修等で教育パッケージを試用し、教育・啓蒙と資材のブラッシュアップを並行して行う。また、アウトリーチ活動として、地域での出前授業や、名張市内の中学校・高校での授業等を、地域や現場からの要請に基づいて実施する。また、現在、名張市内の工業団地での展開の可能性を模索している。 また、副教材兼啓発用の資材として、配布用のリーフレットを作成する。リーフレットはリテラシー教育の際に副教材として配付するほか、名張市の健康に関するイベント等で配付、名張市立病院や市役所に設置する。